

## 平成 29 年度井川小学校学校評価(最終)

※ 記述内の点数は 4 点満点のアンケート調査結果。 評価は A B C D の 4 段階。

評価項目 1	おもいやりを持つ子	
目 標	全校児童が学年を越えて互いに相手を思いやる温かい学校になる	
取組状況と 達成状況	<p>〈平成 28 年度の状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は体験活動を充実させ思いやりある子を育てている(保護者 3.3)</li> <li>・帰りの会でよさを伝え合っている(児童 3.2)</li> <li>・卒業式、入学式を全員参加の対面式に改善</li> <li>・いじめや冷やかし、からかいのない学級だ(児童 3.1)</li> </ul>	
	<p>〈平成 29 年度の到達目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が自分からあいさつできる。</li> <li>・学級や全校集会で温かな発言や拍手が日常的になる。</li> <li>・冷やかしやからかいのない集団だ。(児童 3.3 以上)</li> </ul>	
	<p>〈具体的な取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活作文の展示</li> <li>・道徳の時間での体験活動を生かした思いやりの題材を積極導入</li> <li>・QUの実施と活用</li> </ul>	
	<p>〈結果・成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校は体験活動を充実させ思いやりある子を育てている(保護者 3.3 ⇨ 3.4)</li> <li>○あいさつを相手よりも先にしている(児童 3.6)</li> <li>○帰りの会でよさを伝え合っている(児童 3.2 ⇨ 3.3)</li> <li>○生活作文を全学級で展示できた。</li> <li>○QUの分析を職員研修として実施して学級指導に生かした。</li> <li>△いじめや冷やかし、からかいのない学級だ(児童 3.1 ⇨ 3.1)</li> </ul>	
自己評価	評価 <b>A</b>	<p>学校の取り組みが少しずつ成果を上げ、児童自己評価と保護者評価がともに向上した。深刻ないじめはなかったが、からかいや冷やかしなどがあり、問題を解決できる集団になるよう引き続き指導をしていきたい。</p>
学校関係者評価	評価 A(5名) B(0名) C(0名) D(0名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団登校で上学年が下学年の面倒を見ることがよくある。</li> <li>・あいさつはできないわけではないが積極的でない場面もある。</li> <li>・いじめ、からかいの評価が 2.8 から 3.1 になっているのは年度当初はあったのではないか。</li> <li>・携帯電話等の所持率は高くなっている。今後、これらがいじめにつながらないよう指導の充実を図って欲しい。</li> <li>・学校に地域や保護者から情報が入りやすいようにしてほしい。</li> </ul>

評価項目 2	深く考える子	
目 標	基礎基本が定着し、対話や話し合いのある授業が展開している	
取組状況と 達成状況	<p>〈平成 28 年度の状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県学習状況調査結果(県平均比較 4年+8.4 5年+1.6 6年-0.9)</li> <li>・ 勉強がよくわかる(児童 3.4)</li> <li>・ 授業で理由をはっきり述べる発言ができる(職員 2.6)</li> <li>・ グループや全体で話し合うことができる(児童 3.4)</li> </ul>	
	<p>〈平成 29 年度の到達目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県学習状況調査で県平均を 3 P 以上上回る。</li> <li>・ 発言や思考を連鎖する話し合いができる。</li> <li>・ 学習リーダーがいる。</li> <li>・ 漢字や計算が満点近くになる。</li> </ul>	
	<p>〈具体的な取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数学習と専科の拡充</li> <li>・ 調べ学習や自由研究の推奨</li> <li>・ 基礎満点メソッドの研究</li> <li>・ 読書活動の日常化</li> </ul>	
	<p>〈結果・成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○勉強がよくわかる(児童 3.4)</li> <li>○授業で理由をはっきり述べる発言ができる(職員 2.6 → 3.1)</li> <li>○わけや理由を発表している(児童 2.9 → 3.1)</li> <li>○漢字計算メソッドについて研究会を 6 回開いた。</li> <li>△県学習状況調査結果(県平均比較 4年+0.8 5年+4.4 6年+1.3 平均 2.2)</li> <li>△学習リーダーを育てようとしている(職員 2.9)</li> <li>△家庭学習の時間を確保している。(児童 全県平均よりを大幅に下回る)</li> </ul>	
自己評価	評価 <b>B</b>	発表や話し合いが深まって対話や討論のある授業が少しずつ展開されている。基礎の定着についても全職員での研修が進んできた。学習調査結果も向上しており、リーダーづくりや家庭学習などの課題解決に向けて今後も取り組みたい。
学校関係者評価	評価 A(2名) B(3名) C(0名) D(0名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理論的に考え、理由を話すことができるようになってきているのは授業をそのようなスタイルで行っているからだと思う。</li> <li>・ 家庭学習が足りない原因とその対応を十分にしてほしい。</li> <li>・ 読書をすることで語彙も増え、自分の言葉で表現できるようになるので充実を図って欲しい。</li> <li>・ 学力の評価の仕方が変わってきていることを保護者にも知らせる必要がある。</li> </ul>

評価項目 3	進んで活動する子	
目 標	自主的自治的活動の積極的な展開で児童の課題解決への意欲が向上する	
取組状況と 達成状況	<p>〈平成 28 年度の状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は楽しい(児童 3.7)</li> <li>・定期的に学級会を開いている(児童 3.2)</li> <li>・学校は学校行事や学年のイベントをよく工夫している(保護者 3.4)</li> <li>・すばやく集まる集会を月 1 回実施した</li> </ul>	
	<p>〈平成 29 年度の到達目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任不在でも 1 日の進行ができる学級になる。</li> <li>・希望や要望がたくさん出される学級になる。</li> <li>・到達目標が個と集団に常にある。</li> </ul>	
	<p>〈具体的な取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り活動や異学年交流の推進</li> <li>・4年生以上の児童会活動</li> <li>・ファイナルイベントの実施</li> <li>・学級会や全校集会の定例化</li> </ul>	
	<p>〈結果・成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校は楽しい(児童 3.7 )</li> <li>○定期的に学級会や全校集会を開いている(児童 3.2 ⇨ 3.4)</li> <li>○全校遠足、全校花火大会、スキースケート教室などの実施</li> <li>○学校は学校行事や学年のイベントをよく工夫している(保護者 3.4 ⇨ 3.7)</li> <li>○担任不在で朝の会や帰りの会を多くの学級で進行できた。</li> </ul>	
自己評価	評価 <b>A</b>	2週に1回、全校児童集会を開いて目標を設定したり希望を发表或しすることが日常化してきた。縦割り活動もファイナルイベントを加えてダイナミックに展開できた。保護者にも子どもたちの変化が伝わって温かい評価につながっている。
学校関係者評価	評価 A(5名) B(0名) C(0名) D(0名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班活動は充実している。上学年が下学年の面倒を見たり、下学年が上学年から学んだりするいい機会になっている。</li> <li>・楽しいと思える学校が子どもにとっては一番すばらしいと思う。</li> <li>・行事が工夫され、子ども達にとっては貴重な体験になっている。</li> <li>・義務教育学校でも6年生のリーダー意識を育てることは重要だ。</li> </ul>

評価項目 4	地域連携・防災教育・安全教育・食育	
目 標	地域へ積極的な情報発信を行うほか、防災教育や安全指導で連携を図る	
取組状況と 達成状況	<p>〈平成 28 年度の状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は子どもたちの様子をわかりやすく伝えている(保護者 3.6)</li> <li>・避難訓練でよく考えて行動できた(児童 3.8)</li> <li>・学校は子どもの安全を守る努力をしている(保護者 3.4)</li> <li>・学校は桜サポートや警察等とよく連携協力している(職員 3.5)</li> </ul>	
	<p>〈平成 29 年度の到達目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙媒体と電子媒体での積極的な情報提供。</li> <li>・避難訓練でよく考えて行動する(児童 3.8)。</li> <li>・学校はさくらサポートなどとよく連携している(保護者 3.5)。</li> <li>・食に関する児童の意識が高まっている(職員 3.3)。</li> </ul>	
	<p>〈具体的な取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログやSNSでの積極的な情報発信</li> <li>・6回の抜き打ち避難訓練と4年生以上の避難所宿泊訓練の実施</li> <li>・通学路での実際の安全指導場面の増加</li> <li>・全学級での食育の授業の実施</li> </ul>	
	<p>〈結果・成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校は子どもたちの様子をわかりやすく伝えている(保護者 3.5 → 3.6)</li> <li>○避難訓練でよく考えて行動できた(児童 3.8 → 3.8)</li> <li>○学校は子どもの安全を守る努力をしている(保護者 3.4 → 3.4)</li> <li>○学校は桜サポートや警察等とよく連携協力している(職員 3.5 → 3.6)</li> <li>△食に関する児童の意識が高まっている(職員 3.2 → 3.0)</li> </ul>	
自己評価	評価 A	保護者への情報発信については好評価を得ている。また4年生以上の宿泊避難所研修により児童の防災意識が一層高まった。食育授業を全学級で実施するなど取り組みを進めており、成果を出せるよう今後も指導していきたい。
学校関係者評価	評価 A(5名) B(0名) C(0名) D(0名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の方からの情報発信はとて素晴らしい。学校報の全戸配布も良かった。</li> <li>・ネットで見られるのは手軽で、それが親子の会話につながっている。</li> <li>・地域の協力が素晴らしい。特にさくらサポートの方々には大変お世話になっている。</li> <li>・食に関する意識が低下しているのは気になる。今後の工夫をお願いしたい。</li> </ul>

評価項目 5	小中一貫校に向けた取組の推進	
目 標	義務教育学校の具体的な計画の推進と保護者の理解促進を図る	
取組状況と  達成状況	<p>〈平成 28 年度の状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域、保護者、児童に理解が深まっている(職員 3.0)</li> <li>・ 開校に向けた職員の意識の高揚や準備が進んでいる(職員 3.1)</li> <li>・ 合同イベントの実施による児童生徒交流の日常化</li> <li>・ 義務教育学校についての積極的な情報提供</li> </ul>	
	<p>〈平成 29 年度の到達目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 義務教育学校の教育計画案の策定</li> <li>・ 専科授業の積極的な導入による教科担任制の試行</li> <li>・ 日程や時間割の試行</li> <li>・ 小中合同の行事や取り組みの試行</li> <li>・ 保護者や住民への情報提供と児童への理解促進</li> </ul>	
	<p>〈具体的な取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5, 6 年生の 45 分と 50 分授業の混在した時程の実施</li> <li>・ 図工、音楽、体育、習字、社会等の専科体制の実施</li> <li>・ P T A 全体会や学校報等を通じた情報提供や全校児童集会等での積極的な説明</li> <li>・ 「井川讃歌」の歌詞募集と群読等の取り組み</li> <li>・ 運動会、文化祭、中総体激励会等での合同イベントの試行</li> </ul>	
	<p>〈結果・成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域、保護者、児童に理解が深まっている(職員 3.0 ⇨ 3.2)</li> <li>○ 開校に向けた職員の意識の高揚や準備が進んでいる(職員 3.0 ⇨ 3.2)</li> <li>○ 50 分授業のスムーズな導入と常態化</li> <li>○ 高学年での複数の教師が教科担任となることの定着化の促進</li> <li>△ 生活や学習のきまりや教科運営などの実際の学校運営の協議が不十分</li> <li>△ 保護者や地域への情報提供が不十分</li> </ul>	
自己評価	評価 <b>B</b>	新しい学校での新たな時間割や授業の指導体制について試行し、児童に定着が図られたほか、「井川讃歌」などの取り組みで新たなスタートへの気持ちの醸成ができた。一方で、小中間での具体的な課題の突き合わせが不十分であり、開校後に引き続き話し合いが必要である。
学校関係者評価	評価 A(0名) B(5名) C(0名) D(0名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者には情報が伝わってきている。伝わるとそれに応じてまた不安な部分もある。今後も情報提供をお願いしたい。</li> <li>・ 小学生がいないと義務教育学校に関心が薄いように思う。</li> <li>・ 現在ある課題については早めの検討と対応をしていただきたい。</li> <li>・ 教員の意識も変えて、新しい学校である義務教育学校をつくる気構えを持ってもらいたい。</li> </ul>